

おかしな家族

広島市立祇園中学校

3年 ^{くすもと}楠本 ^{ゆい}侑生

「はよ来てー。ジャンケンするよー！」

母さんのこの号令がかかると、テスト勉強中であろうと何だろうとその手を止め、父さん、母さん、妹、そして私の家族全員がリビングに集合する。その光景を他の家族が見たならば「これから何が始まるんだ!？」と驚くことだろう。別に大したことはない。これから家族四人でお菓子を分けるのだ。

「最初はグー、ジャンケン……。」

私の家族はみんなお菓子が大好きで、どんなお菓子でもジャンケンをして平等に分ける。例えば、板チョコ。二片ずつに割った計四つのチョコを、ジャンケンに勝った人から好きなのを取っていく。つまり簡単に言うと、勝った人ほど大きいチョコがもらえるのだ。しかし、どのチョコも二片ずつ。割れ方によって多少形は異なるものの、口に入ったらその違いなんて分からない程だろう。そんな細かいことでジャンケンするなんて、ばかばかしいと思うかもしれない。実際私もそう思っていた。

「別にチョコぐらいでジャンケンなんかせんでもいいじゃん！」と言い、数日間私だけジャンケンをしないことがあった。私が自分の部屋にいと、リビングからは三人のジャンケンと楽しそうな声。その時私は初めて気付いた。我が家のジャンケンタイムは、他の家庭にはない特別な時間だということに。

「知ったった？ ポテチをご飯に乗せて一緒に食べ

るとおいしいんよ！」

「えーっ，えびせんの方が合うでしょ。」

そんな会話をしながらの夕食。実際に，いろいろなお菓子をご飯に乗せて試してみたり……。

あれから，私は再びジャンケンに参加するようになった。大して形が変わらない四つのチョコを巡ってのジャンケン。でも，なぜかやっぱり楽しい。何も板チョコに限ることではない。四で割り切ることができなかった端数のクッキーやまんじゅう，ケーキなど，あらゆるお菓子を巡り，我が家では毎日真剣勝負なのだ。これが我が家の団らんの時間でもある。

私の家族は変わっている？ 確かに，我が家はちょっと変かもしれない。でも，家族は比べるものではないと思う。世の中にはいろいろな家族がいて良いし，そして家族には，それぞれの家族の良さがあるのだ。我が家の良さは，それはもちろん“みんなお菓子が大好きで，それを通じてみんなが楽しめる”ところ。

私の家族は，みんなお菓子が大好きだ。父さんも母さんも，子どもに譲ろうという気は一切ないらしく，公平にジャンケンで分けようとするので，つくづく大人気ないな，と思う。そして，今日も，母さんの号令がかかる。

「ジャンケンするよー！」